

# 議会だよりの入善

GIKAI

DAYORI

NYUZEN

No. 172

2015年1月27日



じゅわ〜と  
にゅうぜん

12月  
定例会

## 目次

## おばあちゃんと一緒にペタンコ

あいの風とやま鉄道開業イベント	2 P
コンビニで納税が可能に（常任委員会レポート）	4 P
町政を問う 代表・一般質問（9議員）	6 P
平成25年度決算を認定（決算特別委員会レポート）	15 P
桐山の獅子舞（入善の祭り）	16 P

# あいの風とやま鉄道開業イベント 入善駅で3月14日開催

12月議会の  
あらまし

12月議会は、2日から17日までの16日間開会し、町長から提案のあった平成26年度補正予算案4件、条例の制定など2件、議員提出議案1件を審議し、すべて可決した。  
また、陳情2件を審査したほか、10日、11日の代表・一般質問で9人の議員が質問に立ち、論戦が交わされた。

平成25年度決算認定

一般会計については賛成多数で認定、6特別会計は賛成全員で認定された。

## 補正予算の概要

一般会計では、婚活応援講演会の開催費や、桃李学童保育の保育室の増設にかかる工事費など、6742万円を追加し、総額111億4506万円とした。

国民健康保険特別会計では、療養給付費の増加に伴う負担金の増額などとして、1億2998万円を追加した。

そのほか下水道特別会計で3224万円の減額、後期高齢者医療特別会計で77万円を増額した。

あいの風とやま鉄道開業イベント開催業務委託料、及び沿線駅WiFi（無線LANサービス）環境整備事業費 43万円

3月14日の開業にあわせ、入善駅での開業イベントに係る開催費や、WiFi環境整備事業に対する補助金を計上する。

結婚活動支援事業費 45万円

結婚を希望する方や家族、一般を対象に婚活応援講演会を開催する。

農業経営体法人化支援事業補助金 147万円

法人化する農業経営体の増加に伴い、補助金を増額する。

道路改良舗装事業費 1450万円

5月に行われる県の「森の祭典」に併せ、周辺道路の整備を行う。

放課後児童クラブ推進事業費 625万円

桃李学童保育の保育室を増設する。

## 一般会計決算に関する討論

### 反対討論

松田 俊弘 議員

平成25年度も、育児休業を理由に16人の子どもが保育所を退所させられた。原因は、保育士不足にあり、臨時保育士の身分保障と処遇改善をさらに進めるべきだ。

保育料の算定ミスは、職員間の不断の報告、連絡、相談が希薄になってきたからだと考える。その根底には職員不足が上げられる。職員の増員を図るべきだ。

### 賛成討論

野島 浩 議員

地方財政を取り巻く経済環境は、依然として厳しい。このような状況の中で、若干の課題を残しながらも、事業全般で相応の成果が見受けられる。

特に、県内トップクラスの健全財政が維持されていることを大いに評価する。

## 条例の制定・改正

入善町放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の制定

平成27年4月から開始予定の「子ども・子育て支援新制度」に対応し、学童保育の設置や運営に関する基準を定める。

### 反対討論

井田 義孝 議員

条例案の児童一人につき最低1・65㎡以上という面積要件は畳1畳の広さで、保育所の0歳児の要件と同じだ。小学生の面積要件が0歳児と同じであり納得できない。

町が実施している学童保育は、児童20人までが2人の支援員で、30人までは3人、40人までは4人の支援員を配置することになっている。

条例案では40人まで2人の支援員でよいことになっており、現状を大幅に下回る基準を条例化すべきではない。

賛成多数で可決

### 入善町国民健康保険条例の一部改正

法の改正に基づき、平成27年1月から出産育児一時金を増額する。

賛成全員で可決

## 陳情

国民健康保険への国庫負担引き上げを求める陳情書

陳情者 新川・生活と健康を守る会準備会

国民健康保険への国庫負担金の大幅な引き上げを直ちに行うよう意見書の提出を求める。

賛成少数で不採択とした

難病医療法における助成対象の拡充を求める陳情書

陳情者 新川・生活と健康を守る会準備会

指定された難病の軽症者についても対象とすること、また助成対象となる疾病の拡大を図るよう意見書の提出を求める。

継続審査とした

## 議員提出議案

農業農村の再生に向けた農業委員会等制度・組織改革に関する意見書

今後、農業委員会制度など組織改革について、具体的な措置や法制化を検討するにあたっては、関係者の意見を幅広く聞き、地域の農業と農政の実態を踏まえて検討するよう意見書を提出する。

賛成全員で可決

### 選挙管理委員会委員の選挙

平成26年12月25日任期満了となる選挙管理委員を選挙した結果、次の4人が当選した。



井田 勲氏 (井田)



高見 敏明氏 (小杉)



中塚 忠光氏 (青木)



米澤 茂美氏 (入膳)

### 11月臨時会

11月臨時会では、人事院勧告に基づく給与等の改定や、臨時職員の賃金の増加により一般会計で2413万円を増額した。それに伴う条例改正も賛成全員で可決した。

# レポート

## 総務 常任委員会

コンビニで納税が可能に

Q 町内全てのコンビニで納税ができるようになるのか。

A 全国14社23チェーン店で住民税、軽自動車税、固定資産税、国民健康保険税の4税について納付が可能となる。  
平成27年3月から試験運用し、4月から本格運用の予定である。

老人福祉センター  
後期の総合計画で検討

Q 老人福祉センターの老朽化が目立つ。設備などの故障が発生するたびに修繕しているが、抜本的な見直しが必要ではないか。

A 建設から相当年数が経過し、老朽化により雨漏りなどが起きている。また、浴場の設備などで、年に数回は突発的な故障が発生している。後期の総合計画の中で検討していく。

国保税の限度額引き上げも検討

Q 国民健康保険の給付費負担が増加している。本年度末ではどのような状況になるのか。いずれ保険料の引き上げが必要になってくるのか。

A 国保会計は依然厳しい状況である。給付費については、前年上半年期と比較して7・5%増となっており、基金残高も減少している。税率改正については、新年度に向けて検討していかねばならない。

クロスフロー方式の小水力発電は効率が良い

Q 今回、小水力発電設備の修繕費が計上されている。期待をしている事業だが、あまりにもランニングコストが大きいためであれば見直しも必要では。

A 現在、入善用水で2種類の水車で実験を行なっている。クロスフロー方式は非常に効率が高く、3〜5キロワット時を発電している。将来的には7キロワット時まで発電可能と見込んでいる。上掛け方式は残念ながら、水量の関係で故障が多く、中止も視野にこれらを検討する。



実証実験中(左は上掛け、右はクロスフロー)

子育て支援、PR方法の工夫を凝らす

Q 町がつくった子育て支援リーフレットは非常に分かりやすいが、配布箇所が少ない。もつと若者が入りやすい場所や保育所など、実際に子育て世代が集まる場所にも配布すべきだ。

A リーフレットは健康福祉課など役場窓口においてある。今後、保育所や児童センター、サンウエルなどに置く。

子育て世代の方に目につく場所にも置き、情報をいち早く提供できるようにしたい。  
少しでも町の取組みを理解してもらえよう周知に努める。

### こんな意見も

●過去の婚活イベントの状況を見ると、男性のコミュニケーション能力が低いと聞く。  
コミュニケーション能力を高める講演をシリーズで開催してはどうか。  
●結婚や出産を躊躇する理由として、経済面がネックとなっている現状がある。  
子育ての負担軽減策を充実し、入善町で家庭を持つて良かったと思われる施策を期待する。





小学校6年生までの学童保育の受入れへ

最も大きな柱として前町長が積極的に推進してきた「健全財政堅持」の姿勢を継承し、「活力ある元氣な入善」をつくる。また、地域を支える重

要な要素が、「人口」であると認識している。急激な人口減少に歯止めをかける施策が特に重要であり、子どもを一人でも多く産んでいた、たく

断を許さない状況である。町税など所要の財源確保をしつつ、限られた財源での予算編成となる。前例や慣例にとらわれないことなく、事務事業を見直し、選択と集中を図る。

消費税率の再引き上げが見送られたが、社会保障の財源の確保と充実が確実に行われるよう、全国町村会などを通じて要請していく。

着実に総合計画を推進させるといふ点や、選挙公約で掲げた政策を予算に反映させる大変重要な予算編成である。

具体的には、結婚相談員制度の創設・子育てにおける節目の支援を充実

「町民の幸せの追求」を第一の命題として、新年度予算を編成していく。

選挙後、新政権において速やかな対応を求めるとともに、国の動向を注視し、情報収集に努めるなどの確に対応し予算編成をしていく。

また、米澤前町長において策定された第6次総合計画の前期計画の最終年度である。

・ 3人目以降の保育料無料化

解散・総選挙による予算編成への影響は

国の動向を注視し、情報収集に努める

島町長は町政の舵取りを担う者として、どう政策に取組むのか。

米澤町政を引き継ぐ笹島町長 平成27年度予算は町長就任後、初めての当初予算編成である。

・ 保育士の確保

国の予算編成は、地方財政の指針であり、町の予算編成に密接に関連していることから、地方財政計画の策定の遅れが危惧される。

トップしている。政府予算案については、閣議決定が越年編成になると考

## 平成27年度予算編成に向けた重要施策は 町長 子育て支援の充実を図り 人口減少に歯止めを



松澤 孝浩 議員(会派アクセス)

**少子化対策には安定した雇用が必要  
一生涯派遣労働を許す法の改悪はやめるべきだ**  
**町長 不安定雇用拡大の懸念は承知している  
関係機関と正規雇用を働きかけていく**



子どもは社会の宝

**問** 「派遣社員では結婚もできない」と言う声を耳にする。  
少子化対策には、安定した雇用が必要であり、

町内企業に正社員での雇用を働きかけるべきだ。政府は先の臨時国会に、派遣労働者の受入れ制限期間3年を撤廃する法案を出した。衆議院の解散で廃案となったが、安倍首相はあきらめていない。

法の改悪はやめるべきだと思いませんか。  
**町長** 各種調査で、派遣労働者は未婚率が高いと報告されている。

今後派遣労働者などの正社員への転換や、処遇改善などについて町内企業に働きかけていく。法の改正案は、これまで派遣は臨時的・一時的としてきた派遣労働の原則を覆すものであり、不

安定な働き方が広がるとの懸念があることは十分承知している。少子化に拍車がかかることのないよう、関係機関とともに正規雇用について働きかけていく。

**町長** 町農家の減収額は約6億円だ。国はナラシ対策で、標準的な収入を下回った認定農業者に減収額の68%、ナラシ対象外の農家には34%を補てんする。補てん金額は、大豆、麦も含まれ、現段階での計算は困難だ。

**問** 国の補助金削減と米価の暴落で、このままではやっていけないと、農家は嘆いている。  
町農家全体では、これらの影響でどれだけ収入が減るのか。  
国は米価暴落に対し、

仮に、米だけで計算した場合、104の認定農業者を対象に約1億5000万円という試算となる。それ以外の921農業者には約6000万円の補てんとする。価格保障と所得補償を、

全国町村会を通じて働きかけていきたい。

**子ども60人の延長保育で保育士3人は異常だ  
正規職員の割合を増やし  
臨時職の確保に努める**

**問** 早期、延長、土曜保育は、仕事で忙しい保護者には欠かすことのできないサービスだ。  
しかし、柗山保育所の延長保育では60人の子どもに対し、3人しか保育士がいけない。これでは正常な保育ができない。  
正規職員の数を増やし、臨時職員の待遇改善を図るべきだ。

**町長** これまでは保育士の正規と臨時職の割合は6対4だったが、7対3になるようにしたい。



松田 俊弘 議員（日本共産党）



デイサービスで健康体操

## 町が軽度と判断しても 介護申請をすすめるべき 町長 本人の希望とケアマネの判断で



井田 義孝 議員

**問** 4月から要支援の人のデイサービスやヘルパー事業が町独自事業へ移される。

また、新規申し込みの

人はまず25項目の調査で、軽度か介護保険を申し込むか振り分けられる。

新川地域介護保険組合では1次判定で自立や軽度と判定され、2次判定で重度に変更される割合はどのくらいか。

**小堀健康福祉課長** 1次判定で自立と判定された人のうち、2次判定で重度変更された人は92%、要支援1から重度変更された人は30%だ。

**問** 本当は介護が必要な人が、一次判定では92%も「必要なし」と判定されている。

介護保険申請でさえこうなのに、町は25項目の調査で介護の必要なし、

と判断できるのか。

申請者に介護の権利をきちんと説明すべきだ。

町が軽度と判断しても、介護申請をするよう積極的に働きかけるべきだ。

**健康福祉課長** 本人の希望や、包括支援センターのケアマネジャーが必要と判断すれば、介護申請につなげていく。

**デマンドタクシー  
500円は高すぎる  
現状の試算。議会に相談していく**

**問** 12月2日に議会に示された乗り合いデマンドタクシーの計画は、自宅まで送迎してもらえるこ

とは朗報だ。だが、一回500円は高すぎる。

福祉の性格を持つ事業で採算を優先するのは適切ではない。料金は引き下げるべきだ。

**竹島農水商工課長** 現状の試算は500円で行った。議会ともよく相談していきたい。

**ダム湖しゅんせつで漁業者の意見反映を  
漁業者などの意見・情報を収集していく**

**問** 国土交通省は宇奈月ダム湖上流にたまった石などをしゅんせつし、ダム近くに船で運んで、排砂時にダム下流に流す計画だ。

漁業者は長期の濁りが

予想されると猛反発している。

町長は漁業者の声を聞き、土砂管理協議会に反映させるべきだ。

**町長** 実施年度は未定だ。漁業者など関係者の意見情報を収集していきたい。

**問** 内水面漁協の地下水くみ上げの影響を住民が懸念している。

地下水位や塩水化の影響調査をして住民に公開すべきだ。

**堂徳住環境課長** 町は水位観測点を設置しており、ホームページに掲載する予定だ。  
塩水調査は青崎保育所の井戸でも行っており、情報は提供できる。



## 北方領土に関する歴史認識をどう捉えるのか 町長 北方四島は疑う余地もない 我が国固有の領土である



北方四島は我が国固有の領土

**問** 町として今後の北方領土の返還運動をどう進めていくのか。

**町長** 北方領土には、先人が開拓した大切な土地

があり、現在県内在住の約590名のもと島民の方々にとっては、かけがえない故郷だ。

入善町には、歯舞群島の志発島からの引揚者が

多い。また、サケマス漁やコンブ漁などを通じ、深い関わりがあることから、早期返還を願う町民の思いは、ひととき強いものがある。

一方、もと島民の高齢化などに伴い、返還運動の形骸化が憂慮される。

町としては、一日も早い返還実現に、町民の関心と理解を深めながら、次世代に運動を継承していく。

今後も富山県民会議や



五十里 忠茂 議員

関係機関と連携を図りながら、返還要求運動を推進していきたい。

**問** 未来志向の領土教育を、どう推し進めるのか。

**岩田教育委員会事務局長**

県では、小中学校で北方領土教育の推進、環境整備を図るために、北方領土教育の現状把握、教材の開発、授業研究、学校行事での取組みなどが実施されている。

小中学生が主体的に歴史認識を正しく理解し、関心と呼び起こしていくことが大切なことと捉え、今後とも北方領土教育を継続して実施していく。

デマンド交通に移行する考えがあるか  
来年の7月をめどとして移行したい

**問** 時代のニーズに即応したデマンド交通を考えているか。

**農水商工課長** 町営バスについては、一定の利用頻度があるものの、バス停が遠い、バス路線がないなどの意見もある。

さらなる利便性向上のため、デマンド交通の導入を検討している。

デマンド交通は、自宅まで送迎するものであり、高齢社会においては有効な公共交通であると認識している。

町職員の年休取得率をどう高めるのか  
取得がなかなか進まないのが現状である

**問** 年休取得率が低いのはどのような問題点があるのか、また、取得率を高めていく手立てはないか。

**大角総務課長** 年休取得がなかなか進まない要因として、「職員不足」という状況が、大きく影響を及ぼしていると考えられる。

職員の増員で年休の取得率向上につなげることはもとより、何よりも、職員の健康管理上において、適度な休暇の取得は大変重要であると認識している。



利便性の高い二次交通をめざして

## 北陸新幹線開業に伴う町の二次交通を問う

町長

### 新幹線のダイヤに合わせて定時定路線で 試行運転に取組む



田中 伸一 議員

**問** 新幹線開業に向け町と黒部宇奈月温泉駅を結ぶ、住民ニーズに応じた二次交通の整備が必要と思うが、町はどのように

考えているのか。

**町長** 町民の要望はもとより、町内事業所や出張で訪れる人など、事業所からの要望も多い。

また、新幹線を利用して入善を訪れる観光客やビジネス客を対象に定時定路線での二次交通を試行運転していきたい。

**問** 新幹線の正式なダイヤ発表後、町営バス運行の再編はあるのか。

また、デマンド交通と二次交通の組合せで、今まで以上に住民の利便性が図られると考えられるが、当局の方針を問う。

**町長** デマンド交通の導入により交通空白地域が解消され、町民が等しく

公共交通を利用できることにより利便性の向上が図られる。

それまでは現行の体制を維持しつつ、二次交通を追加して対応する。

**青木地内町有地や消防署跡地の有効活用は  
好立地の視点から利活用  
の可能性を検討する**

**問** 青木地内の町有地に「ふるさと産品センター（仮称）」を建設してはどうか。

また、消防署建屋はどうするの。

**梅津企画財政課長** 拠点施設の整備は、効果的なまちづくり施策に結び付

くものと考えている。  
当該土地は8号バイパス沿線で立地条件もよく、様々な視点から利活用の可能性を検討する必要がある。

消防署建屋については、跡地利用を検討していきたい。なお、国道8号拡幅事業の予定があり、役場庁舎などの公共施設も含め、用地利用を検討していきたい。

**事件・災害時の  
登下校の安全対策は**

**危機管理マニュアルに  
基づき安全対策を実施**

**問** 不審者目撃情報や子どもの誘拐、凶悪犯罪に對して、また大地震発生時や気象警報発生時において、児童の登下校時の安全対策はどうか。

**滝本教育長** 不審者などに対する安全対策としては、「危険等発生時対処要領」に基づき警察や教育センター、各学校、関係機関と情報交換や連携を図っている。

小学校では集団登下校や教員の付き添い、巡視を行っている。また、保護者や地区の安全パトロール見守り隊への協力を依頼し、安全メールの一斉送信や学校ホームページで情報提供を実施している。

凶悪事件発生時などは、警察からの指示のもと児童・生徒を直接保護者に引渡す対応を実施している。

災害時は、危機管理マニュアルに基づき、また気象警報発生時は、校長会と教育委員会が協議し、安全対策を講ずる。

## 地方創生に何を期待し、どう取組むか。

町長

### 人口減少社会を乗り越えることが重要課題

**問** 国の重要施策である地方創生に対して、何を期待し、どのように取組んでいくのか。

また、交付金について

は、有意義に町民へ還元されるべきである。

**町長** 国では、地方が直面する人口減少や東京一極集中を是正するために地方創生に向けた取組みを本格的に進めることとなった。

町としても人口減少という重要課題の解決に向けて、新たな価値観の創造や新たな地域づくりを模索することが重要であると考えている。

特に、税財政面においては、自由度の高い交付金の創設は、有利な財源として大きな期待を寄せている。

町民と共に、新たな知恵と工夫を積み上げ、人

口減少社会を乗り越えていくことが、本町の目指す地方創生のあり方であり、今後、国の動向を注視しながら進めたい。

**問** 本町「10地区」における地方創生とは、どうあるべきと考えるか。

**町長** 町が地方創生を進める上で最も重要になるのが、地域力の創出である。

その源は、自治会などのコミュニティであり、人であると考えている。各地区では、祭りなどの伝統文化の継承や様々なボランティア活動が行なわれている。

複雑多様化する地域ニーズに対応するため、現

在町では「地域のささえあい事業」や「コミュニティパートナーシップ事業」に取組んでいる。

将来的に地域コミュニティの強化を目的として、分野別に細分化されている地区に対する補助金を統合した「一括交付金制度」の導入も視野にいられている。

一定のルールに基づき、柔軟に予算を配分できる仕組みを検討していきたいと考えている。

**消防防災センターの  
有効利用について  
複合的な機能を大いに  
活用していきたい**

**問** 消防防災センターの消防署機能と防災センター部分をどのようにする

分けし、有効利用していくのか。

**町長** 消防署部分については、火災や救急に迅速に対応できるように有効活用を図りたい。また、消防団員の一層の技術向上にも努めたい。

防災センター部分については、自治会や自主防災組織の研修や、小・中学生などの防災教育の場として活用したい。

**問** 今後の費用負担は、どうなるのか。

**町長** 費用負担については、消防署部分は全額が新川地域消防組合の負担となる。防災センター部分については、消防署としての利用もあるので、費用を按分する必要がある。

構成市町間で調整していきたい。



完成まじかの消防防災センター



野島 浩 議員



改良を求められる君島踏切

## 君島踏切の改良計画の進捗状況は 町長 平成27年度に詳細設計を着手予定



五十里 国明 議員

**問** 君島踏切は幅が狭く、緊急車両も通りにくい。通勤時間帯は車輛も多く、通学児童は踏切をはみ出して横断している。踏切

改良工事の進捗状況を早く町民に伝えるべきと思うがどうか。

**町長** 県に確認したところ、今年度事業費200万円余りをかけ、踏切部周辺の地形や構造物、建物などを把握するための現地測量と、踏切部を含む道路改良の設計に係る概略検討を進めている。踏切を含む前後の道路区間に、片側に歩道を設け、合わせて道路の線形改良を行いたいとしている。

平成27年度は詳細設計に着手予定であり、「あの風とやま鉄道株式会社」と協議を行っていくこととなる。

予算面など県との連携や調整を密にし、少しでも早く整備が進められるよう努めたい。

改正された品確法をどのように考えるか  
透明性、公正性の確保  
に取組む

**問** 「公共工物品質確保促進法」の一部を改正する法律が公布された。適正な積算に基づく設計書金額の一部を控除する「歩切り」は厳に慎まなければならぬ。町当局は適切に行っているのか。  
**企画財政課長** 公共工物品質確保が地域社会の形成に重要な役割を担っ

ているものと考えている。地域の建設業者の中長期的な育成や技術的能力の確保、地域の実情に応じた入札・契約方法の導入や入札契約の透明性、公正性の確保など引き続き取組みたい。

副町長が議会軽視と注意を受けた内容は安易に辞めると言っているが、

**問** 副町長は、6月13日、16日の各常任委員会で辞職すると述べた。後日、議会軽視と「議長より注意を受けております」と答弁されたが、注意を受けた内容とは何か。

**副町長** 議長からは「あなたは、町長が指名し、議会が同意して、選任された副町長である。安易に辞めるといったことをどこでも言っている」との主旨の厳重注意を口頭で受けた。

議長の指摘は、公の職にあたるものが、私見によつて重要な職を辞することを戒める、大変重い内容である。

円滑な町の事務処理をはじめ、副町長の責務に應えることにはならないと猛省し、私の不徳のいたすところであり、改めてお詫び申しあげる。

# 子宝支援金制度をどのように強化するのか

## 町長 内容を充実させ、第3子を設けることの理想と現実のギャップを埋める

**問** 町長は町広報の中で、子宝支援金制度を強化すると言っているが、どのように強化するのか。

はと考えるがどうか。

**町長** 富山県が昨年度行ったアンケート調査では、全体の58%を超える夫婦が3人以上の子どもの理想としているのに、実際にはほしい子どもの数は2人以下が55%超を占めている。

また、その理由として、「子育てや教育にお金がかかりすぎる」といった経済的な理由が75%と一番多かった。

3人以上の子どもの望む夫婦が、経済的な理由で第3子をあきらめているのが現状だ。

子宝支援金制度は、従来通り第3子以降の誕生を対象に、その内容をよ

り充実させたい。

第3子をもうけることに対する理想と現実のギャップを少しでも埋めることにより、少子化対策に取組んでいきたい。

**利用者支援事業をどのように活用するのか**  
個人端末で子育て情報を得ることができ

**問** 町では、来年度から子ども子育て支援計画の中で、利用者支援事業を予定しているが、どのように活用するのか。

**町長** 利用者支援事業は、平成27年4月から施行される、子ども・子育て支援法に位置付けられる事

業である。

現在、町社会福祉協議会で構築中の「子育て支援に関する情報を集約した総合ホームページとメルマガ発信ネットワークシステム」に、この利用者支援事業を組み合わせて実施することを検討している。

子育て世代に特に普及が著しい、パソコンやスマートフォンなどの個人端末を用いることで、子育て支援情報が容易に入手できるようにする。

また、メールアドレスを登録することにより、適宜必要な情報が配信されるようなシステムの構築を目指したい。

実施に必要な費用は、国、県、町がそれぞれ3

分の1ずつ負担する。

**学童保育の開所時間の延長を**  
各学童保育運営委員会や指導員と検討中

**問** 学童保育の開所時間の延長はできないのか。

**教育委員会事務局長** 今年8月に、来年度に学童保育の対象となる児童を持つ保護者に対し、アンケートを実施した。

その結果、開所時間を延長してほしいという要望があった。町としても開所時間の延長について、一定のニーズがあることを把握している。

各学童保育運営委員会や指導員などと検討を進めている。



充実が期待される子宝支援金制度



中瀬 淳哉 議員



地産地消を進める「あいさい広場」

「道の駅」の建設構想はないか  
町長 施設整備の是非も含め、調査や検討を進めることができればと考えている



本田 均 議員

**問** 新幹線の開通や、8号バイパスの開通を機会に、「道の駅」の建設を考えてはどうか。

**町長** 「道の駅」の整備は、入善町にとつても交流人口の増大や地域産業の活性化はもとより、施設の運営に伴う雇用の創出など、多岐にわたるメリットが見込まれる事業の一つと考えられる。

一方で、施設管理運営では、町が直営で施設を運営していくことは困難である。民間の活力や経営ノウハウなどを活用することが前提になると考えている。

- 「道の駅」には、
- ・観光や産業の振興
  - ・福祉などの住民サービスの提供
  - ・就労や空き家情報の発信などの移住・定住の促進

・備蓄品や非常用資機材の保管などの防災への取組みなど、多様な機能が想定されている。今後は、まちづくりの総合的な拠点として、総合計画の後期基本計画の策定も見据えながら、施設整備の是非も含めて先行事例などの調査や検討を進めることができると考えている。

教育におけるICT化の現状について  
情報教育の推進、環境を整備していきたい

**問** 町の教育現場での、情報通信技術（ICT）

の状況と今後の課題や計画はどうか。

**教育委員会事務局長** 電子黒板については、小中学校で100%の整備率だ。その他、パソコンやICT機器を利用した教育活動を実践している。

また、「情報モラルの教育」についても力を入れている。情報を適切に扱い、その影響や責任について考える教育を発達段階に応じて行っている。

地方創生法案に対しての考え方は

町民あげての知恵と工夫で未来を創生したい

**問** 地方創生法案に対して、町はどのように考え、取り組むのか。

**町長** 町が抱える最重要課題は人口減少である。

人口減少という現状に真面目から挑戦していくことが、町における地域創生の基本的な考えである。自立性や将来性、地域性などが求められ、これまでにない大胆な発想も必要になるものと考えている。

再生可能エネルギーによる発電設備を整備し、売電による「電気料金無料化の町づくり」といった壮大な構想などの意見もある。

地域版総合戦略の策定においては、町民あげての知恵と工夫で、持続可能な入善町の未来を創生していきたいと考えている。

# 平成25年度決算を認定

## 決算特別委員会レポート

### 審査の経過

9月18日から、平成25年度の一般会計及び特別会計の審査が行われた。

会計管理者をはじめ担当課長の出席を求め、決算資料に基づく説明を受け、質疑を行うなど、6回にわたり委員会を開催した。

10月17日には、株式会社ウーケをはじめ、園山キヤンプ場、杉沢の沢スギ、坪野遺跡、運動公園陸上競技場及び野球場など8カ所について、改修状況や各事業の現況を



文化財の適切な管理を

視察した。

10月31日に総括質疑、討論、採決を行い決算特別委員会の審査を終了した。

### 付託案件はすべて認定

一般会計の決算認定については賛成多数、国民健康保険や下水道などの特別会計6議案については、賛成全員で認定すべきと決した。

### 主な審査意見

#### 財政運営の健全化堅持を評価

財政運営の目安である財政力指数は前年度より若干向上、経常収支比率については前年同様に推移している。実質公債費比率は前年度を下回るなど、県内トップクラスの財政の健全化が堅持されている。

国庫補助や交付税対応のある有利な起債方法を活用し、町の貯金である財政調整基金、減債基金を取り崩すことなく、着実に積み増しもされていることを評価する。

### 課の再編と適正な職員数の確保を

建設下水道課、農水商工課、健康福祉課など所管業務が多岐にわたる一方、学童保育は複数の課にまたがっている。

また、10年近くで約70人の職員数が削減され、職員の負担が増えている。課の再編と、適正な職員数の確保を求める。

### 保育体制の確保を

育児休業に伴う保育所退所児童数は25年度16人と、改善されていない。現状の保育体制は臨時保育士に頼る部分が多い

のも事実だが、希望する児童全てが入所できるよう、臨時保育士の正規職員化、待遇改善によって、保育士の確保に一層の努力を望む。

### 観光物産協会の役割重要

新幹線開業が間近に迫り、交流人口拡大に向け、協会の役割は、ますます重要になってくる。協会の活動が目に見える工夫を行うとともに、観光案内人の育成など、人材育成にも取組まれたい。

### 防災士養成研修に女性の参加を促せ

安全、安心のまちづくりに自主防災組織の活動は欠かせない。活動補助金の内容も見直されたが、実績が5件と活用団体が少ない。制度の啓発に力を入れてもらいたい。

また、防災士養成研修に補助を行っているが、女性の参加を促すとともに、町における防災士の役割を明確に位置付けよ。防災士の設立に支援を求める。



期待される観光事業

# 入善の祭り

## 栲山の獅子舞

祭りには、五穀豊穣を願い、時には災いをもたらす力に対する人々の畏敬の念や畏怖を感じる。同時に人を引き付け、人と人とのつながりを強める力もある。



栲山の獅子舞は、人々を引き付ける華やかさが際立っているように思う。それが、平成22年の中国上海国際博覧会での獅子舞披露につながっているのであろう。

### 一人獅子

#### 金玉で遊ぶ

栲山の獅子舞には「天狗と獅子の起こし舞」や「天狗の四人舞、六人舞、八人舞」、酒樽を取り合う「猩々」、子天狗・大天狗の三人舞、十二人舞、天狗の四人で踊る竹舞の「内、外、ちどり、さらいまわし」、傘舞などがある。

中でも「ほら」は、近隣の地区には無く、栲山獅子舞を代表する舞だ。これは一人獅子が金玉で遊ぶもので、最後に天狗と取り合あいとなり、天狗が家の屋根に放り投げるもの

である。

栲山の獅子舞の由来は、450年前頃に能登から伝わり、新屋や青島地区の良いところを取り入れたという説と、新屋地区から伝わったのではないかという説がある。

新川獅子に代表される二人立ち獅子は、伊勢大神楽の影響も強く受けていると言われている。

毎年10月14日、15日に近い土、日曜日に開催される秋季祭礼で、五穀豊穣に感謝し、八幡社へ獅子舞を奉納している。

2日間かけて神輿を担ぎ町内約350戸を各班順番に回り、宮総代や吉事のあつた家などで、演舞は深夜まで及ぶ。

### とやまの獅子舞 百選に選ばれる

昭和39年に町の無形民族文化財に指定され、同年に栲山獅子舞保存会が結成された。平成17年には、「とやまの



獅子舞百選」にも選ばれている。

この10年間は、「氷見まつり」や愛知県の「春日井まつり」、「とやまweek in 東京」など、毎年のように町外の祭りやイベントに出演している。

地域の誇りであり、町の財産でもあるこの獅子舞を担うのは地区の若者たちだ。これからも県内外で披露していきたいとの思いは熱い。

## 編集の窓

新春お慶び申し上げます。

1月6日の消防出初式で節目となる第60回の裸放水が勇壮に行われました。下帯姿でまといを振り上げる消防団の皆さんに誇りを感じました。

そして安全・安心の拠点となる入善町消防防災センターが3月に竣工します。

「もつといい町」を目指し、当局と住民が一体となって成果が見えるよう、議員も更なる議論を深めてまいります。

皆さんには、新しい年が幸せ多き年になりますようお祈りしております。

### 議会広報編集特別委員会

- |      |       |
|------|-------|
| 議長   | 中瀬 範幸 |
| 委員長  | 鬼原 征彦 |
| 副委員長 | 松田 俊弘 |
| 委員   | 山下 勇  |
| ”    | 野島 浩  |
| ”    | 田中 伸一 |
| ”    | 中瀬 淳哉 |